

世界的共同広げ 核使用許さず廃絶へ

原水爆禁止 22 年世界大会 ヒロシマデー集会



広島に原爆が投下されてから 77 年となる 6 日、原水爆禁止 2022 年世界大会ヒロシマデー集会が広島市内で開かれました。核兵器の使用も威嚇も許さず、核保有国に核軍備撤廃義務の履行を求める世界的共同を呼びかける「広島宣言」を採択しました。

◀「広島宣言」が採択され、会場全体で国民平和大行進のペナントを掲げる
ヒロシマデー集会参加者＝6 日、広島市中区

開催中の核不拡散条約（NPT）再検討会議第 1 委員会で議長を務める、マレーシアのサイード・モハマド・ハスリン国連大使は、一握りの国が核兵器の必要性を主張し、「万人の安全保障がおかされている」と指摘。核兵器廃絶のために「市民社会が死活的な役割を果たす」と述べました。

核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のベアトリス・フィン事務局長は、「核兵器禁止条約は、被爆者と日本の皆さんの運動と訴えなしにはありえませんでした」と述べ、禁止条約に参加するよう政治家に働きかけようと呼びかけました。

「黒い雨」被害者の証言や救済を求めるたたかいが紹介され、核兵器の非人道性を告発。禁止条約第 1 回締約国会議に参加した早稲田大学 2 年生の高垣慶太さんが、「私たちは一刻も早く核兵器を廃絶しなければいけない。行動するときは今です」とスピーチすると、拍手に包まれました。

「核兵器禁止条約に参加する日本を」と題した特別企画では、日本共産党、立憲民主党、参院会派「沖縄の風」の国会議員が動画で発言し、「禁止条約に参加する政府をつくろう」と述べました。

日本共産党 志位委員長があいさつ 草の根の力で政治のゆがみを正そう

日本共産党の志位和夫委員長は、岸田文雄首相が NPT 再検討会議や、広島での平和記念式典での演説で「二つの大事な点」——核兵器禁止条約にも NPT 第 6 条に基づく核保有国の核軍縮・撤廃義務にも触れなかったことを厳しく批判し、「核兵器の非人道性を体験した日本の政府ならば、『核抑止論』という呪縛を断ち切り、条約参加を決断すべきだ」と強調しました。政治のゆがみを正すのは草の根の力だとして、「世論と運動の力で政治のゆがみを正し、禁止条約に参加する政府をつくろう」と呼びかけると、大きな拍手が湧き起こりました。

志位委員長あいさつ全文はコチラ👉



あいさつする志位和夫委員長
＝6 日、広島市中区

